

結城晴

性癖のなり

Haru became an onahole.

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



性に目ざめた
結城晴

Haru became an
onahole.

〇〇君

この子が

今日から
君が

プロデュースする
アイドルのー

結城晴
小学六年

よろしくな
プロデューサー

アイドルって
何すつかまだ良く
わかってねーけど

晴は事務所に所属する
年頃の女の子とは違い

これが俺と晴の
出会いだった

かきりん

俺に対しても
明るく快活で…

まるで
男の子のような
振る舞いだったせいか
すぐに打ち解けること
ができた

だがー

03



ん?
どうしたんだよ
プロデューサー

そんな
驚いたような顔して

ぽかぽか

あ?
オレの胸なんて
どうでもいいだろ

別にそんな
でかくもねーし

さ、今日は
何するんだ?
まぢー

日に日に女の子らしく
なっていく晴の身体と
性に無自覚なその姿…

ぽかぽか

限界だった
俺の理性は
すぐさま崩壊した

冷房
冷房

仕事のある日の前日は
俺の部屋に泊まらせる

上からは会社所属の
アイドルとして

色々教え込んでいい
という話だったので

おじやま
しまーす



とりあえず晴には徹底的に
俺専用のオナホとしての
価値観を叩き込んだ

部屋では
いつでも犯せるように
衣服はすぐに脱がせ



靴下以外の
着用は禁止させた

最初は
警戒されたものの
元から性には
疎い娘だったからか

それを受け入れるまで
時間はかからなかった

これが晴の
生オマンコ……

最初は膣内が
あまりにきつく

相手が中学生という
背徳感もあってか

十往復もしないうちに
果ててしまったが

晴はそれよりも
早く果てていた

当初の期待を大きく
上回ってくれた

女子中学生の
オマンコの感度

俺はそれが
嬉しくて

気を失った
晴のオマンコに

続けて三回ほど
射精した

そういった扱いが
しばらく続くと

明日の予定に
関わらず

セックス目的で
俺の部屋へ
通うようになった



オマンコとケツ穴

主人の気分次第で
犯す穴を選べるよう

小ぶりの尻を突き出し
挿入を待ち構える

俺が教えた
オナホの作法だ

ニミ...
ニミ...

おぬ...
おぬ...

きた
きたま

イクイク...
イクイク...

そして挿入を
確認するとすぐに

まるで昼休みの
自由時間のような
奔放な姿で

自分のアクメを
楽しみ始める

好き...かも...

コリコリッ♡って...
されるの...

まるで俺を
誘っているかのようだ

あっ♡

あっ.....

イク...♡
イクう...♡

あっ♡
ぶろてゆさ...♡
そ...
そこお...♡

膨らみはじめた
ばかりの晴の胸も
日に日に円錐型の
歪でいやらしい形へ
成長し

そして今では
こうして
時間さえあれば
オナニーをしている

フムフム

オムコ
スゲェ

オムコ
スゲェ

しかも
わざわざ俺に良く
見えるように...



小学生サイズの
小ぶりなクリトリスを
必死にこね回す姿が
実に可愛い



イクゼ...

そう言われると
嬉しいのか
恥ずかしいのか
いつそうオマンコを
弄る手が激しくなる

「晴のオマンコ
良く見えてるぞ」

いつもは
ランドセルを背負って
小学校に通い
仕事では
ファン達の前で
ステージに立つ...



それが
晴のズリネタになり
幼い情欲を刺激する

そんな
卑猥な自分を
目の前で
俺に見られている

まだこんなに小さい
アイドルの女の子
だというのに...

そうして
いったばかりの
晴のオマンコを
犯すのは最高だ

ハッ

ハッ

まだヒクつきの
治まらない
小さな雌穴に

岩のように隆起した
大人のチンポが
躊躇なくブチ込まれる

濡れて
緩みはしても

それでも
この小さい穴が

まだまだ小さい
晴のオマンコ

これ以上に
広がるのが

不思議な
くらいにまで

押し広げる

すると晴は

声にもならないような
喜びの声をあげ

こじ開けられた
オマンコの中を
乱暴に擦られながら

小さい体を
痙攣させて

何度も

何度も

何度も
果てる

それから
俺の気が済むまで

晴のまだ小さい穴に
精液を吐き出し続ける

オオー...
オオー...
オオー...

ニギニギ...
ニギニギ...
ニギニギ...



オッ

ここまでくると
晴のあとけない笑顔
瑞々しい性意識

そして理性は
とうに消え失せ

その小さい体と
本能のみで
俺に应える



晴は俺のチンポで
犯されるのが
よほど嬉しいようだ

すっかり
舌まで出して
甘えている

この様子だと
俺のオナホとして
扱われる生活に
もう完全に
満足しているな

その姿に俺も
嬉しくなったので

晴の中学生マンコへ
また射精してやる

可愛らしいオナホ姿を
視姦ながら射精す
特濃の精液を

まだ狭い膣内へ
力の限り擦りつける



あーッ

あーッ

ニギニギ

ニギニギ

ニギニギ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ...

ハハハ

ハハハ



そうして
お互い汗と精液で
ドロドロになった後は

シャワーで体を
綺麗にする

もちろんその時も
晴と一緒にだ

見ろよ晴
お前のオマンコ
こんな精液入ってるぞ

まだ毛も
生えておらず
筋肉と柔肉との間に走る
一筋の割れ目でしかない
晴のオマンコに

大人の男の指を
突っ込み
乱暴にかき回す



ぶろてゆさ...
あっ

あっ
あっ

すると晴は
嫌がるそぶりを
見せることなく

軽く足を開いて
腰の前に突き出す

すき

突き上げた指に
体を預け

まるで立小便でも
するかのような
品の無い姿勢

精液をほじくり
出される感覚に

甘く酔いしれたような
惚けた表情で
俺に応えてくれる

あっ
あっ



また晴の体に
情欲の火が灯り

あらかた精液を
かき出し終わった頃には

その間も

晴は何度か
絶頂を向かえ—

こうして俺に
オマンコの中を
かき回されるのは
晴にとって
至福の時間だ

オオオオ...

オオオオ...

ズン...
ズン...
ズン...

オオオオ...



十分に奉仕を
仕込まれた晴は

小学生とは
思えないような顔で

勃起した
大人のチンポへ

自発的に

オオオオ...

チンポ...

オオオオ...
オオオオ...
チンポ...
ズン...

オオオオ...



小さい唇を
吸いつかせる

オオオオ...

チンポ...

オオオオ...

オオオオ...
オオオオ...

オオオオ...
チンポ...

そのまま
大きく股を開き

その身軽な体で
俺に馬乗りになる

ひゅん

ようやく
胸が膨らみ始めた
ほどの年齢で

積極的に
性行為に興じる
その愛らしい姿と

尻穴の皺まで
数えられるほどに近く

眼前に広がった
女子中学生の
幼い秘部

今まさにそこへ
視線が向けられて
いることを

晴はより硬さを増す
俺のチンポから
感じとっているだろう

ちゅぽん
ちゅぽん



教えてもないのに
自然と身についた
卑猥な振る舞い

この子を
今すぐに犯したくて
たまらなくなる

まるで運動会の
遊戯のように

楽しげに踊る
晴の可愛らしい
スジマンコ

そして精液を
全て吸い尽くす
かのような

ひゅん

中学生とは
思えない

献身的で濃厚な
バキュームに

俺はすぐ果て
晴の小さい口へ
精を吐き出す

ちゅぽん

脳まで
犯されるかのような
むせ返る精臭

それに
うっとりするような
顔をした晴は

自ら足を広げ

期待に満ちた
表情で

挿入が
待ち遠しいのか
秘部に感じる
俺の視線からか

その姿のまま

晴は一度
失禁しながら
アクメをした

これまでに
見た事のない
新たな
晴の痴態

目まぐるしい
性の成長に
感動を覚えた

幼いスジマンコを
こちらに向ける

そうしてからは上手に
奉仕ができたこと
ご褒美として

綺麗にしたばかりの
晴の陰に

またたっぷり
精液を吐き出してやる

膨らんだ亀頭で
幼い膣壁を擦られる度

日頃のサッカーで
引き締まった
小さい体を震わせ

あらわ
露になった
尿道口から
小便を撒き散らす

掃除が楽な
お風呂場だから
いいもの...

仕方のない子だ

絶頂に体を震わせる
小学六年生の
凄まじい嬌声が

浴室に反響する

年齢に不相応な
性の快楽に支配された
晴の幼い体は

まるでバネ仕掛けの
オモチャのように
四肢を跳ね上げ続け

それが落ち着くまで
晴はしばらくの間
アクメし続けた

ピクピク...

ピク...

ピクピク...

ピク...

ピク...

キ...

キ...

オ...

ピク...

ニ...

ヤベ...

かんぽ...

かんぽ...

かんぽ...

イ...

ガ...

ひとしきり
アクメした晴は

粘度の高い唾液を
舌に絡ませ

舌先をゆらゆらと
宙に揺らし

官能的な甘い吐息で
俺に訴える

ふふ…
あれだけやったのに
今度はキスが
欲しいのか

セックスした後は
いつもこうして
甘えてくるな

そして晴は
まだ僅かにヒクつく
小さい体を俺に預け

啄^つばむような
可愛らしいキスを

舌を絡めあう
濃厚なキスを

そんな
夢のような時間を
堪能した

本当に晴は
可愛いアイドルに
育ってくれた

体拭いたらご褒美に
また犯してあげないと
いけないな

ちゃんと撮れてるかな

晴のお父さん見てますか

サッカー大好き

元気いっぱいなあなたの娘さん

ゆさ

あなたになかだし膣内射精された晴のお母さんも

きっとこんな風にいやらしい子だったんでしょうね

こんなにいやらしい子に育ちましたよ

ふうー！っ♡

ふうー！っ♡

それから今度！

あー！イク♡

イクう…♡

…コラ

晴のお父さんに見せる動画撮ってるのに…

カメラにおしっこ

かかっちゃっただろ

今度はお父さんとも一緒にセックスしようか

晴

きっと喜んでくれるよ

ふふ

ザー

性に見目ぞめた
結城晴

Haru became an onahole.

あとがき

白田太です。

というわけで、今回の本は
再びデレマスの本でした。
ありすに引き続き今度は晴ということで
デレマスというかU149本ですね。
今回の本は自分の好きな要素である
「無自覚エロ」「快樂墮ち」「お風呂」
という三要素を全部乗せてみました。
竿役がPなので自分の描く本としては
純愛寄りと言っていいはず…。

ありすよりもおっばいが育ってる子なので
そのあたり意識してちょこんと膨らませてみました。
このくらいの発展途上って感じのおっばい
えっちでいいよね。
ロリキャラはまだまだわからないところが多いので
難しいですが、描いてて楽しいジャンルではあります。

次は秋のコミ1ですが内容は未定です。
またU149系かも。
冬は創作のエロでやってみたいなあ。

それではまた次の本でお会いしましょう。
ではでは。

誌名：性に目ざめた結城晴

発行日：2019/08/12

2020/11/23(DL版)

著者：白田太

homepage:<http://wwheel.blog53.fc2.com/>

mail:sirodai@hkg.odn.ne.jp

twitter:[shirotadai](https://twitter.com/shirotadai)

印刷：ねこのしっぽ様

※ 18歳未満の方の購入及び閲覧、無断転載
アップロード等を禁じます。



waterwheel

